



## 皮膚病を撲滅して市場評価アップを狙おう

新年あけましておめでとうございます！今年も、皆様に役立つ情報をお届けできるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。さて、今月のテーマは「皮膚病対策」です。市場でもちらほら皮膚病の子牛が見受けられますので、この機会に皮膚病についての理解を深め、対策していきましょう！

### 中央市場の傾向

下の図は、令和7年1月～11月までの中央市場3日間で取引された和牛子牛のうち、「**皮膚病**」の損徴があった子牛の「**頭数割合**」と「**市場平均価格を100とした場合の割合**」を示したものです。

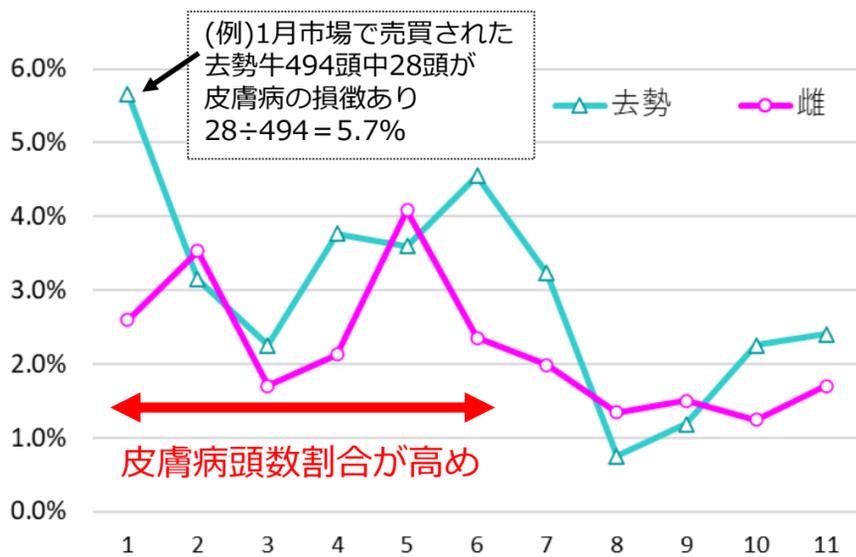


図1 去勢・雌それぞれの市場売買頭数に占める皮膚病子牛の頭数割合 (%)

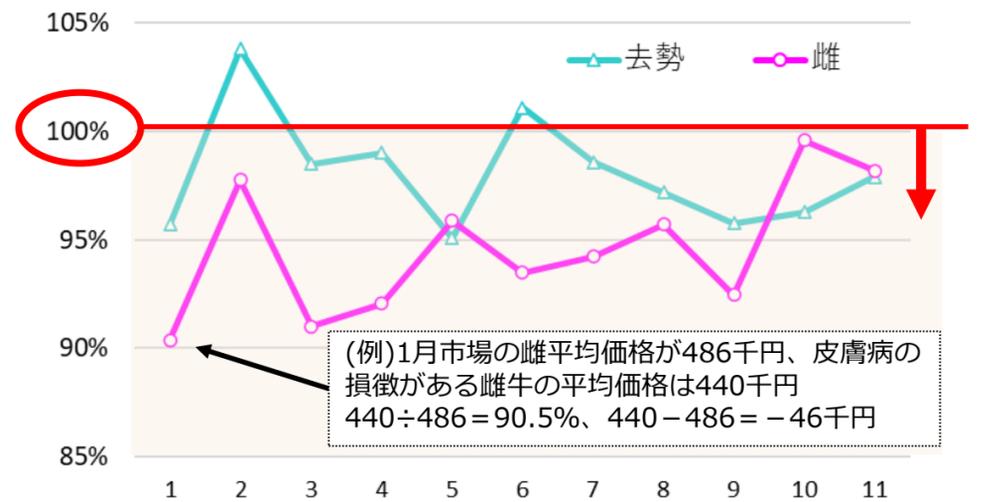


図2 去勢・雌それぞれの市場平均価格を100とした場合の皮膚病子牛の価格割合 (%)

- 皮膚病の子牛は**厳冬期から春にかけて**（1～6月頃）**多く見られ**、特に**去勢が多い**
- 皮膚病の子牛は**市場平均より低い価格**でセリ落とされる傾向
- **雌**では一貫して**市場平均より安く**、**10%程度低価格**（最大-46千円）となる場合も



発育が申し分なくとも、皮膚病の影響で市場価値が下がるのはモッタイナイ！命に関わる病気ではありませんが、早期対策に努めましょう。

### 主な皮膚病の種類



#### 牛白癬 (うしはくせん)

- **カビ**の一種により発症
- **子牛**がかかりやすく、特に**頭部**に脱毛を伴う**白斑**ができる
- **感染力が強く**、人にも感染する



#### 牛疥癬 (うしかいせん)

- **ダニ**の寄生により発症
- **尾根部**や**後肢の上部**などで多く見られる
- **ひどいかゆみ**で牛の落ち着きがなく、尾振りや体をこすりつける行動が増える



子牛に多い皮膚病が「**牛白癬**」。ミルクやスターター摂取量の不足、群編成など、「**栄養状態の悪化**」と「**大きなストレス**」が根本的な原因となります。早期治療が重要ですが、まずは**飼養管理を見直して**根本的な原因を取り除くことから始めましょう！

# 牛白癬は鉄製品の消毒と治療の2本柱で対策を

## 1 鉄製品の消毒



牛白癬の原因菌である皮膚糸状菌は、牛舎内の「鉄製」の部分に潜んでいます。木やコンクリートやオガクズ等の敷料にはうまく定着できないようです。

牛白癬が多発している場合は、**牛体が触れる鉄製の製品を定期的に消毒**しましょう。

### 消毒方法

- ① 蓄圧式噴霧器又はジョウロを用意する
- ② 塩化ジデシルジメチルアンモニウムを主成分とする消毒薬（クリアキル、ロンテクト、アストップ等）を用意し、用法用量に従い畜舎消毒用に希釈する
- ③ 鉄製品に**1週間間隔で4回**、その後**2週間間隔で2回**散布する



## 2 治療

皮膚糸状菌に対し強い殺菌効果をもつ「**ナナフシロン**」を有効成分とする製剤で治療しましょう（治療にあたっては事前にかかりつけ獣医師へ相談のこと）。



牛白癬に感染した牛の患部に製剤塗布（製品名：**ナナオマイシン油剤あすか**）したところ、**約1か月で治療**すると同時に、脱毛部分が解消されました。

## 繁殖サイクルを回してガッチリ ~見えない儲けをわしづかみ!~

第8回は、『繁殖育成期の栄養管理』についての内容でした。今回は、繁殖育成期に続く『初回授精から分娩まで』の飼養管理のうち、栄養管理と種選びについてご紹介します。



↑ 県飼養管理マニュアルのダウンロード

### 第9回 初回授精～分娩

#### 1 栄養管理

繁殖供用が開始される時期の雌牛はまだ**発育途中**にあります。このため、経産牛とは異なり、**自身の成長に必要な栄養分をしっかりと満たす**必要があります。

表1 飼料給与メニュー例

月齢	繁殖用配合※1	乾草※1
12	2.5 kg/日	6.0 kg/日
16	2.0 kg/日	7.0 kg/日
20	1.0 kg/日	7.0 kg/日
24	0.5 kg/日	7.5 kg/日

※1 表中の飼料の成分値  
 ・繁殖用配合：水分12%、CPI6%、TDN70%  
 ・乾草：水分16.6%、CPI11.3%、TDN54.5%（R6年度八幡平地域で生産された乾草17点の分析結果の平均）

育成用配合から**繁殖用配合への移行は10か月齢頃**から徐々に行い（5日かけて1kg切替え）、初回授精を行う12～14か月齢は避けましょう。

#### 2 初回授精における種雄牛の選定

出生時の子牛の死亡要因で最も多いのが「**過大子による難産※2**」です。特に黒毛和種では、改良に伴い生時体重が大型化している傾向があることから、**未經産牛や体格の小さい牛には、生時体重の小さい種雄牛を選択**することが難産を防ぐ1つの手段となります。

※2 出典：令和5年度農林水産省調べ（共済獣医師からの聞き取り）

（一社）家畜改良事業団の精液を使用する場合種雄牛案内に記載されている「**生時体重**」の**ゲノミック育種価が低い（0以下）種雄牛**を選択すると、難産を生じる可能性が低くなります。

表2 黒毛和種「愛之国」データ抜粋

後代数	生時体重(kg)			在胎期間(日)		
	育種価	正確度	後代の成績	育種価	正確度	後代の成績
雄 1173	-6.614	0.99	33.3±4.6	-1.061	0.99	288.4±5.1
雌 557			30.9±4.3			287.9±5.0

育種価0以下

種雄牛によって生時体重が異なる